

## 支援学校 理学療法

### 解答についての注意点

- 1 解答用紙は、マーク式解答用紙と記述式解答用紙の2種類があります。
- 2 大問 **1** ~ 大問 **4** については、マーク式解答用紙に、大問 **5** については、記述式解答用紙に記入してください。
- 3 解答用紙が配付されたら、まずマーク式解答用紙に受験番号等を記入し、受験番号に対応する数字を、鉛筆で黒くぬりつぶしてください。  
記述式解答用紙は、全ての用紙の上部に受験番号のみを記入してください。
- 4 大問 **1** ~ 大問 **4** の解答は、選択肢のうちから、**問題で指示された解答番号**の欄にある数字のうち一つを黒くぬりつぶしてください。  
例えば、「解答番号は  」と表示のある問題に対して、「**3**」と解答する場合は、解答番号  の欄に並んでいる ① ② ③ ④ ⑤ の中の ③ を黒くぬりつぶしてください。
- 5 間違っぬりつぶしたときは、消しゴムできれいに消してください。二つ以上ぬりつぶされている場合は、その解答は無効となります。
- 6 その他、係員が注意したことをよく守ってください。

指示があるまで中をあけてはいけません。

大阪府では、「障害」という言葉が、前後の文脈から人や人の状態を表す場合は、「害」の漢字をひらがな表記とし、「障がい」としています。問題中では、通知文の名称等や、文献等からの引用部分については、もとの「障害」の表記にしています。

1 特別支援教育に関する近年の動向等について、次の(1)～(10)の問いに答えよ。

(1) 次の各文は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月告示)「第1章 総則 第3節 教育課程の編成 3 教育課程の編成における共通的事項 (2) 授業時数等の取扱い」の記述の一部である。正しい内容のみをすべて挙げている組み合わせはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

ア 各教科等(中学部においては、特別活動を除く。)や学習活動の特質に応じ効果的な場合であっても、夏季、冬季、学年末等の休業日の期間は学校休業日に位置づけられているため、これらの授業を行うことはできない。

イ 総合的な学習の時間における学習活動により、特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施と同様の成果が期待できる場合においては、総合的な学習の時間における学習活動をもって相当する特別活動の学校行事に掲げる各行事の実施に替えることができる。

ウ 特別活動の授業のうち、小学部の児童会活動、クラブ活動及び学校行事並びに中学部の生徒会活動及び学校行事については、それらの内容に応じ、年間、学期ごと、月ごとなどに適切な授業時数を充てるものとする。

エ 小学部又は中学部の各学年の自立活動の時間に充てる標準授業時数は、児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮したうえで、上限35時間までの範囲内であれば定めることができる。

- 1 アーイ
- 2 アーウ
- 3 イーエ
- 4 アーエ
- 5 イーウ

(2) 次の文は、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編（幼稚部・小学部・中学部）（平成30年3月 文部科学省）「第6節 学校運営上の留意事項 3 特別支援教育に関するセンターとしての役割」の記述の一部である。空欄ア～エに当てはまる語句の組合わせとして、正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

特別支援教育に関するセンター的機能に関しては、平成17年12月の中央教育審議会答申「特別支援教育を推進するための制度の在り方について」において、①小・中学校等の教師への支援機能、②特別支援教育等に関する  機能、③障害のある幼児児童生徒への  機能、④医療、福祉、労働等の関係機関等との連絡・調整機能、⑤小・中学校等の教師に対する研修協力機能、⑥障害のある幼児児童生徒への施設・設備等の提供機能の6点にわたって示している。

また、中央教育審議会答申においては、特別支援学校における特別支援教育  は、校内における取組だけでなく、例えば、小学校や中学校等に在籍する児童生徒に対する  指導を行ったり、特別支援学校の教師の専門性を活用しながら教育相談を行ったりするなど、域内の教育資源の組合わせ（スクールクラスター）の中で、  としての機能を発揮していくことが求められるとしている。

	ア	イ	ウ	エ
1	相談・情報提供	指導・支援	支援員	直接的な
2	相談・情報提供	指導・支援	コーディネーター	巡回による
3	指導・支援	相談・情報提供	コーディネーター	直接的な
4	指導・支援	相談・情報提供	支援員	巡回による
5	相談・情報提供	指導・支援	コーディネーター	直接的な

(3) 次の各文は、「障害者差別解消法【合理的配慮の提供等事例集】」（令和5年4月 内閣府障害者施策担当）における「1. 合理的配慮の提供事例」及び「2. 環境の整備事例」の記述の一部である。教育場面における合理的配慮の提供事例の内容のみをすべて挙げている組み合わせはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

ア 視覚障害があり、後で復習するときに使いたいので、授業を録音させてほしいという生徒に対して、授業の録音は禁止されているが、障害の状況等を踏まえ、録音機器の使用を認めることとした。

イ 聴覚障害があり、ゼミ形式の授業で活発な議論が交わされたときに、議論のやり取りのフォローをしてほしいという生徒に対して、筆談などにより議論のやり取りを素早く伝えるのは困難であったことから、手話通訳者と派遣契約をし、授業の補助員として配置した。

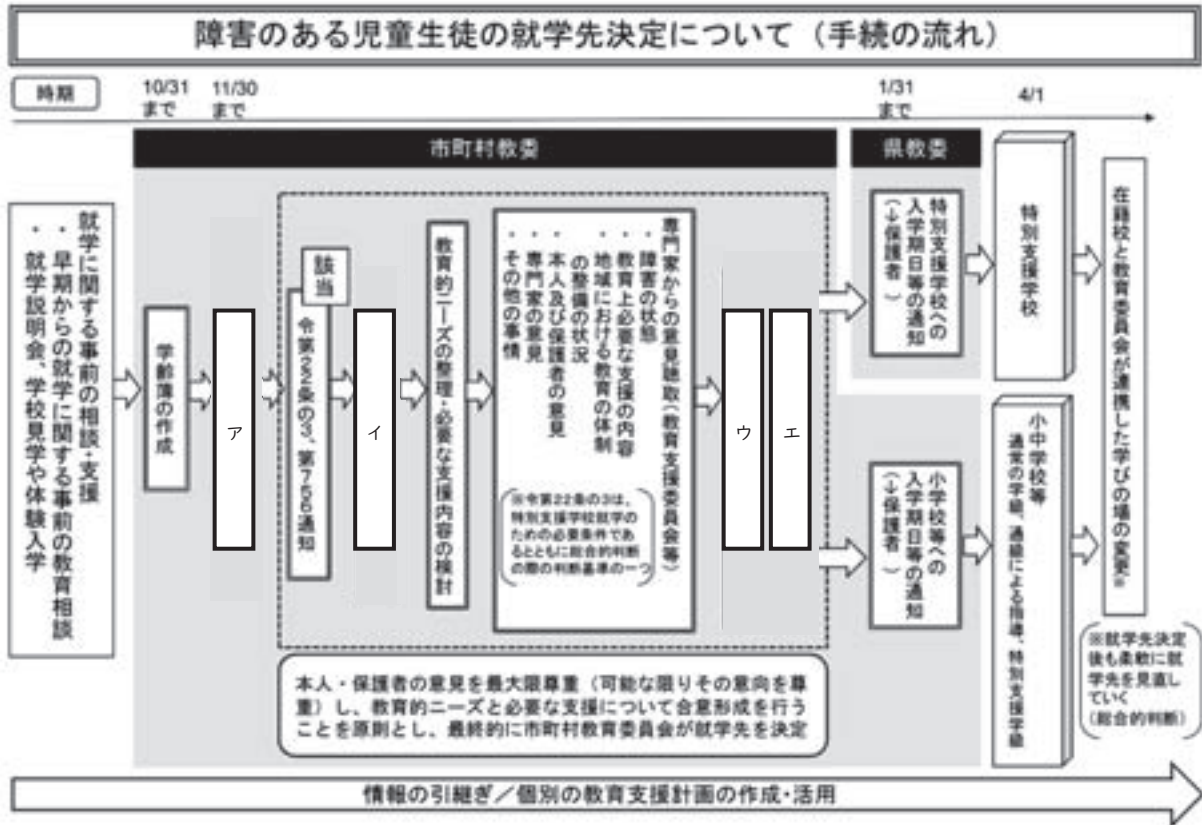
ウ 下肢に不自由さがあり歩行に困難がある。また、長距離の移動では、疲れやすいため、学内の教室移動において、配慮してほしいという生徒に対して、本人と相談のうえ、教室がある建物の玄関付近にフラットなベンチチェアを複数設置し、休憩してから教室へ移動することができるようにした。

エ 知的障害があり、学習活動の内容や流れを理解することが難しく、何をやるのか、いつ終わるのかが明確に示されていないと、不安定になってしまい、学習活動への参加が難しくなる生徒に対して、本人の理解度に合わせて、実物や写真、シンボルや絵などで活動予定を示した。

オ 精神障害があり、講義に集中することが難しい生徒に対して、生徒の希望と症状の診断結果を考慮して、一部の講義にチューターを付けて支援できることとした。

- 1 イーエーオ
- 2 アーエ
- 3 アーウーエ
- 4 イーオ
- 5 アーイーエーオ

(4) 次の図は、「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」(令和3年6月 文部科学省)における、就学先決定の手続きの流れを示したものである。空欄のア～エに当てはまる語句の組合わせとして、正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は



	ア	イ	ウ	エ
1	保護者の意見聴取・意向確認	市町村教育委員会による総合的な判断	合意形成と就学先決定	就学時健康診断
2	市町村教育委員会による総合的な判断	就学時健康診断	保護者の意見聴取・意向確認	合意形成と就学先決定
3	就学時健康診断	市町村教育委員会による総合的な判断	合意形成と就学先決定	保護者の意見聴取・意向確認
4	保護者の意見聴取・意向確認	合意形成と就学先決定	就学時健康診断	市町村教育委員会による総合的な判断
5	就学時健康診断	保護者の意見聴取・意向確認	市町村教育委員会による総合的な判断	合意形成と就学先決定

(5) 次の文は、「教育の情報化に関する手引（追補版）」（令和2年6月 文部科学省）における「第4章 教科等の指導におけるICTの活用 第4節 特別支援教育におけるICTの活用」の記述の一部である。空欄ア～エに当てはまる語句の組合わせとして、正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

1. 特別支援教育におけるICTを活用した教育の充実

(2) 特別支援学校における情報教育の配慮点

特別支援学校では、各教科及び高等部に設けられた教科「情報」（知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校においては、知的障害者である児童生徒のための各教科及び高等部において、必要に応じて設けることができるとされている「情報」）を要として情報教育を展開していくことになるが、障害による 、本来の学習内容に集中できる  を整えるとともに、個々の児童生徒に応じた具体的な支援を考える必要がある。また、学習を進めるに当たって、個々の障害の状態や特性や  等を考慮して、適切な 、指導上の工夫が必要である。

	ア	イ	ウ	エ
1	操作上の困難を補い	媒体	社会経験	補助用具の選択
2	操作上の困難を補い	環境	社会経験	補助用具の選択
3	心理的な不安定さを軽減し	媒体	学習状況	使用頻度の設定
4	心理的な不安定さを軽減し	媒体	学習状況	補助用具の選択
5	操作上の困難を補い	環境	社会経験	使用頻度の設定

(6) 次の各文は、「障害者基本計画（第5次）」（令和5年3月 内閣府）において示されている、  
（4）生涯を通じた多様な学習活動の充実の記述の一部である。内容として、適切でないものは  
どれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 放送大学において、テレビ授業への字幕の付与や点字試験問題の作成など、障害のある学生への学習支援を一層充実する。
- 2 障害の有無にかかわらず、全てのこどもたちの成長を地域全体で支える社会が実現できるよう、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進し、こどもたちの多様な学習・体験活動等を充実する。
- 3 学校卒業後の障害者が社会で自立して生きるために必要となる力を生涯にわたり維持・開発・伸長するためには、障害者の各ライフステージにおける学びを支援するよりも、義務教育における学びを支援する必要がある。
- 4 視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律（令和元年法律第49号）及び「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」（令和2年7月策定）等を踏まえ、公共図書館、学校図書館、国立国会図書館、視覚障害者情報提供施設等が連携を図りながら、障害者の読書環境の整備を促進するとともに、図書館サービス人材等の育成を図る。
- 5 障害者が生涯にわたり教育やスポーツ、文化などの様々な機会に親しむことができるよう、訪問支援を含む多様な学習活動を行う学びの場やその機会を提供・充実する。

(7) 医療的ケアの実施要件として、「大阪府立支援学校における医療的ケアの実施についてのガイドライン」(令和2年10月(令和5年3月 第二次改訂) 大阪府教育委員会)に照らし、適切でないものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 主治医の指示があること。
- 2 学校医及び校長・准校長が、医療的ケアを適切に実施できる環境について、整備されていると判断していること。
- 3 養護教諭または養護助教諭の管理下であること。
- 4 保護者の同意があること。
- 5 保護者の依頼が前提にあること。



(8) 次の各文は、「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引 ●解説とQ & A●」(文部科学省 編著)の記述の一部である。通級による指導の内容として、正しいものを○、誤っているものを×とした場合、組合わせとして、正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

- ア 他校通級の形態の一つとして、特別支援学校小学部・中学部・高等部に、通級指導教室を設置することはできない。
- イ 他校通級をする場合、通学に要する時間は通級による指導の時間として含むことはできない。
- ウ 「通級による指導」とは、大部分の授業を小・中・高等学校の通常の学級で受けながら、一部、障害に応じた特別の指導を特別な場(通級指導教室)で受ける指導形態で、障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服するため、特別支援学校学習指導要領の「自立活動」に相当する指導を行う。
- エ 通級による指導の対象とすることが適当な児童生徒の判断については、当該児童生徒について特別の教育課程を編成するかどうかの判断であることから、基本的に教育委員会が行う。

	ア	イ	ウ	エ
1	×	○	×	○
2	○	×	×	○
3	×	○	○	×
4	○	○	○	×
5	×	×	×	○

(9) 次の文は、「第2次大阪府教育振興基本計画」(令和5年3月 大阪府)における第5章 基本方針(施策の大綱)の記述の一部である。空欄ア～エに当てはまる語句の組合わせとして、正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

基本方針6 学びを支える環境整備

重点取組⑳ | 施設等の計画的な整備の推進

▶ 在籍者数の増加にあわせた支援学校等の環境整備

支援学校在籍者数の増加による教室不足の解消と、国が定める「」に沿うようにするため、将来にわたる  を踏まえ、子どもたちの障がいの状況に応じた、支援学校の新設や既存の学校での増築等を計画的に実施するとともに、適切な環境整備を図ります。また、 が必要な子どもたちの学習機会を保障するため、通学に係る支援や、学校への  の配置等の体制整備を進めます。

	ア	イ	ウ	エ
1	特別支援学校設置基準	公教育の役割	合理的配慮	専門人材
2	特別支援学校施設整備指針	在籍者数の推計等	合理的配慮	専門人材
3	特別支援学校施設整備指針	公教育の役割	医療的ケア	スクールサポートスタッフ
4	特別支援学校設置基準	在籍者数の推計等	医療的ケア	専門人材
5	特別支援学校設置基準	在籍者数の推計等	医療的ケア	スクールサポートスタッフ

(10) 次の各文は、「みつめよう一人ひとりを」（平成31年1月改訂 大阪府教育センター）に照らし、「第2章 障がいの特性理解と指導・支援の在り方 3 知的障がいのある子どもの教育 (2) 指導・支援のポイント」の記述の一部である。内容として、適切でないものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 子どもの行動を理解するには、その行動が起こる因果関係や背景要因等を詳細に調べ、その内面を読み取ることが大切です。情緒不安定になる原因は、本人の内的要因から生じていることが多いため、注意深く観察することが必要です。また、不適切な行動をどうやめさせるかよりも、望ましい・新しい行動を増やしていくという視点をもつことも大切です。
- 2 子どもの良さと課題の両面を捉えて、個別の指導計画を作成します。この計画は、集団指導の中での配慮や個別的な指導も含み、一人ひとりの教育的ニーズに応じて作成します。
- 3 知的障がいのある子どもは、言語発達の遅れを伴うことがあります。学校園生活全体において、視覚情報を提示するなど、わかりやすい指示等を工夫することが大切です。また、表出言語だけに依存せず、身ぶりや手ぶりを使うなど、多様な手段でコミュニケーションする力を育てることが大切です。
- 4 可能な限り自分の意思で選択・決定し、行動できるようになることは、自立に向けた重要な力になります。子どもが自己選択・決定できる場面設定や意思を表出する手段を配慮・支援していくことが大切です。具体的には子どもの特性に応じて、絵や写真カードで選択・意思表出できるように練習していくこと等が考えられます。
- 5 指導を効果的にするために、子どもが興味・関心を持つような教材・教具を活用することが大切です。又、子どもの実態に応じた適切な教材を作成することがより有効です。

2 運動解剖生理学について、次の(1)～(9)の問いに答えよ。

(1) 二関節筋でないものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 大腿二等筋長頭
- 2 腓腹筋
- 3 半腱様筋
- 4 ヒラメ筋
- 5 大腿直筋

(2) 一軸性関節であるものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 指節間関節
- 2 股関節
- 3 膝関節
- 4 肩関節
- 5 椎間関節

(3) 視覚器で光の受容器があるのはどこか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 虹彩
- 2 水晶体
- 3 硝子体
- 4 角膜
- 5 網膜

(4) 動脈と脈拍の触診部位で正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 橈骨動脈 ————— 前腕掌側面の内側遠位部
- 2 後脛骨動脈 ————— 外果の後方
- 3 膝窩動脈 ————— 大腿前面の遠位部
- 4 足背動脈 ————— 足背の中央部
- 5 尺骨動脈 ————— 前腕掌側面の外側遠位部

(5) 肺気量分画について誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 肺活量は「予備吸気量と1回換気量と予備呼気量」を足した量のことである。
- 2 最大吸気量は「予備吸気量と1回換気量」を足した量のことである。
- 3 残気量は「全肺気量から予備吸気量」を引いた量のことである。
- 4 1回換気量は1回の呼吸運動によって気道・肺に出入りするガス量のことである。
- 5 予備吸気量は安静吸気位からさらに吸入できるガス量のことである。

(6) 脳神経とその働きで正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 嗅神経 ————— 鼻腔粘膜の感覚
- 2 滑車神経 ————— 瞳孔の調整
- 3 三叉神経 ————— 咀嚼の運動
- 4 迷走神経 ————— 頸部の動き
- 5 副神経 ————— 顔面筋の動き

(7) 呼吸について誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 吸気時に横隔膜は収縮する。
- 2 安静呼気時には呼気筋は作用しない。
- 3 努力性呼気時に内肋間筋は収縮する。
- 4 努力性吸気時に胸鎖乳突筋は収縮する。
- 5 吸気時には上位肋骨は横径方向に拡大する。

(8) 摂食嚥下について正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 摂食嚥下の過程は「先行期」から始まり、12期の分類に分かれている。
- 2 「咽頭期」に咀嚼する。
- 3 嚥下反射の中樞は延髄にあるとされている。
- 4 嚥下後の呼吸は吸気相から再開する。
- 5 「食道期」には呼吸は停止する。

(9) 感覚について誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 体性感覚には表在感覚と深部感覚がある。
- 2 表在感覚には痛覚は含まれない。
- 3 深部感覚は関節の位置を知覚する重要な感覚種である。
- 4 感覚種には特殊感覚と内臓感覚も含まれる。
- 5 特殊感覚には視覚が含まれる。

3 理学療法評価学について、次の(1)～(9)の問いに答えよ。

(1) 関節可動域測定法で誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 肘関節屈曲は上腕骨と橈骨を軸とする。
- 2 膝関節伸展は大腿骨と腓骨を軸とする。
- 3 股関節屈曲の参考可動域角度は125°である。
- 4 股関節内旋の参考可動域角度は20°である。
- 5 股関節屈曲は膝屈曲位で測定する。

(2) 四肢の測定法について正しいものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 棘果長は上前腸骨棘（最下端）から内果（最下端）までの長さである。
- 2 大腿長は大転子（最上端）から腓骨頭（頭頂）までの長さである。
- 3 手長は橈骨茎状突起（最突端）と尺骨茎状突起（最突端）を結ぶ中点から示指先端までの長さである。
- 4 転子果長は大転子（最上端）から内果（最下端）までの長さである。
- 5 上肢長は肩峰（外側突出点）から上腕骨外側上顆（外側突出点）までの長さである。

(3) 徒手筋力テスト（MMT）の段階付けについて誤っているものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 段階「4」は、重力に抗して運動範囲全体にわたり完全に動かすことができ、テスト肢位を崩されることなく、強力な抵抗に対抗することができる。
- 2 段階「3」は、重力だけに対抗して運動可能範囲を完全に終わりまで動かすことができる。
- 3 段階「2」は、重力の影響が最小にした肢位なら、運動範囲全体にわたり完全に動かすことができる。
- 4 段階「1」は、筋収縮活動は手で触知できないが、重力の影響を最小にすれば自動運動がみられる。
- 5 段階「0」は、筋収縮はおこらず無活動状態。

(4) 後方侵入法による人工股関節置換後の良肢位はどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

- 1 割座
- 2 和式便座位
- 3 椅座位
- 4 横座り座位
- 5 体育座り

(5) 高齢者の転倒で生じやすい骨折はどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 距骨骨折
- 2 大腿骨骨幹部骨折
- 3 鎖骨骨折
- 4 大腿骨頸部骨折
- 5 上腕骨骨幹部骨折

(6) 車椅子の基本採寸について誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

- 1 座幅はおしりの幅+2cm
- 2 介助者用グリップの高さは介助者の股関節から臍部の間
- 3 バックレストの高さは肩甲骨下端の高さ+2～3cm
- 4 座面奥行きは(膝窩部からおしり最後部の長さ)-2.5～5cm
- 5 アームレストの高さは肘90°屈曲位の高さ+1～2cm

(7) 刺激に対する反射や反応について、脊髄-橋レベルの現象のものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 視覚性立ち直り反応
- 2 傾斜反応
- 3 頸の立ち直り反応
- 4 保護伸展反応
- 5 非対称性緊張性頸反射



(8) ブルンストローム法ステージにおいて、各ステージとそのステージで可能な随意運動について正しい組合せはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 上肢ステージⅢ - 肘伸展位で上肢を前方水平に挙上
- 2 上肢ステージⅣ - 肘90°屈曲位で前腕の回内・回外
- 3 下肢ステージⅢ - 椅座位で足を床に滑らせて膝を90°以上屈曲
- 4 下肢ステージⅣ - 立位時に股関節伸展位から膝屈曲運動
- 5 下肢ステージⅤ - 立位で骨盤の挙上による範囲を越えた股関節外転

(9) 筋の構造と機能について誤っているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 椅子から立ち上がる際の大腿四頭筋収縮は遠心性収縮である。
- 2 遠心性収縮は筋の長さが伸張し、起始・停止が離れるような収縮である。
- 3 階段を降りる際、支持脚の大腿四頭筋収縮は遠心性収縮である。
- 4 等速性収縮は筋の収縮速度が一定となるような関節運動時の筋収縮である。
- 5 関節運動の分類は関節運動の起こる動的収縮と関節運動が起こらない静的収縮の二つがある。

4 中枢神経疾患について、次の(1)～(9)の問いに答えよ。

(1) 左中大脳動脈閉塞で生じやすい高次脳機能障害はどれか。1～5から一つ選べ。

解答番号は

- 1 着る手順を説明できるが、誤った着方をする。
- 2 自然な歩行は可能だが、「右足を先に出して」と指示されるとできない。
- 3 視界の左半分にあるものを見落とす。
- 4 麻痺が重度でもそれを意識せずに立ち上がろうとする。
- 5 よく知っている人の顔を見てもそれが誰だかわからない。

(2) 脳卒中患者にみられる異常歩行とその原因の組合せで、誤っているものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

【異常歩行】

【原因】

- |            |       |            |
|------------|-------|------------|
| 1 前足部のひきずり | ————— | 内反尖足       |
| 2 はさみ足歩行   | ————— | 内転筋群の過緊張   |
| 3 下垂足      | ————— | 前脛骨筋の筋力低下  |
| 4 ぶん回し     | ————— | 中殿筋の筋力低下   |
| 5 反張膝      | ————— | 大腿四頭筋の筋力低下 |

(3) 次の症例について答えよ。

60歳の男性 右利き 左中大脳動脈領域の脳梗塞による右片麻痺。発症後、3週間経過した時点でブルンストローム法ステージでは上肢、手指及び下肢ともにステージIで、右肩に垂脱臼がみられる。介助で膝立ち位をさせると体幹が前方へ崩れてしまう。バイタルサインは安定している。この患者に対する理学療法として適切なのはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 床からの立ち上がり練習
- 2 右側片肘立ちの起き上がり練習
- 3 長下肢装具を装着した状態での立位練習
- 4 クレンザック足継手付き短下肢装具を装着した状態での歩行練習
- 5 階段の昇降練習

(4) 次の症例について答えよ。

75歳の男性。4年前に脳梗塞による右片麻痺を発症したが、独歩は可能であり、ADLは自立していた。肺炎のため1週間の安静臥床が続いた後、肺炎の症状は改善したが、伝い歩きはできるものの独歩は困難となった。頭痛、視野欠損、呂律が回らないといった症状はみられない。

もっとも考えられる原因はどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 褥瘡
- 2 脳梗塞の再発
- 3 下肢筋力低下
- 4 関節拘縮
- 5 呼吸機能低下

(5) 脳卒中患者について、土肥・アンダーソンの基準における「途中で運動を中止する場合」はどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 運動開始後、収縮期血圧が20mmHg上昇した。
- 2 運動直後にめまいを訴え、嘔気を訴えた。
- 3 運動直後、期外収縮が1分間に7～8回出現した。
- 4 運動中軽い息切れと動悸を訴えた。
- 5 運動中脈拍数が120拍/分を越えた。

(6) 脳卒中後の左片麻痺患者に対するADL指導として正しいのはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 上衣を右上肢から着衣する。
- 2 車椅子からベッドに移乗するときに左半身をベッドに寄せる。
- 3 階段を下りるときに右下肢を先に出す。
- 4 ズボンは右下肢から履く。
- 5 浴槽には右下肢から入る。

(7) 粗大運動能力分類システム (GMFCS) のレベルⅡ (10歳6か月) の痙直型脳性麻痺児に対する運動指導で最も適しているものはどれか。1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 車椅子の自走練習
- 2 割座での座位練習
- 3 手すりをつかみながらの階段昇降練習
- 4 歩行補助具を使用しての歩行練習
- 5 立位台を用いての立位練習

(8) パーキンソン病で主にみられる症状ではないものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 動作緩慢
- 2 姿勢反射障がい
- 3 動作時振戦
- 4 オンオフ現象
- 5 歯車様固縮

(9) 頸髄損傷 (第5頸髄まで機能残存) 患者が獲得できる機能で正しいものはどれか。

1～5から一つ選べ。解答番号は

- 1 長下肢装具を装着しての平行棒内歩行
- 2 ズボンの着脱
- 3 プッシュアップ動作
- 4 トランスファーボードを用いてのベッドから車椅子への移乗
- 5 手操作式電動車椅子の操作

5 次の症例について、(1)～(6)の問いに答えよ。

80代前半 女性 某年 6月1日に転倒骨折。救急車にて同日入院となり、左大腿骨頸部骨折の診断を受けた。その後、6月3日に手術（後方侵入法による人工骨頭置換術）を施行。早期離床、早期退院を目標として、6月6日より理学療法を開始。大腿骨頸部骨折のGarden分類は、ステージIVである。

(1) 「Guritによる骨癒合日数」について、( )に適する数字を入れよ。

骨折部位	日数
中手骨	( ア ) 週
鎖骨	( イ ) 週
前腕骨	( ウ ) 週
上腕骨骨幹部	( エ ) 週
大腿骨頸部	( オ ) 週

(2) 骨癒合の過程について下記に( )に適切する語を入れよ。

骨癒合の過程は、( ア )、( イ )、( ウ )の3期に分けられる。( ア )には骨折により生じた間隙と髄腔内に血腫が形成される。( イ )は、血腫に新生血管が侵入し軟骨芽細胞は内軟骨性仮骨を形成し、骨折部の間隙を架橋する。( ウ )は、仮骨の再吸収と骨細胞への置換によって、癒合が完了する。

(3) 大腿骨頸部骨折が、大腿骨転子部骨折と比べて骨癒合が得にくい理由を三つ挙げよ。

(4) 大腿骨頸部骨折のGarden分類のステージIVについて説明せよ。

(5) 大腿骨頸部骨折の術前理学療法の目的について説明せよ。

(6) 後方侵入法による人工骨頭置換術後の患者へのADL指導で配慮しなければならないことについて、具体例を挙げながら説明せよ。

